

## 令和7年度運営諮問会議 開催要領

1. 日 時 令和8年1月9日（金）10時30分～12時00分

2. 会 場 宇部工業高等専門学校 大会議室（管理棟3階）

### 3. 出席者

○運営諮問会議委員（五十音順）6名

佐々木 英 樹 委員	佐 藤 敬 二 委員
篠 崎 圭 二 委員	末 永 久 大 委員
久 次 幸 夫 委員	山 田 陽 一 委員

○宇部工業高等専門学校教職員 20名

金 寺 登 校長	
内 堀 晃 彦 副校長（管理運営）	畑 村 学 副校長（国際・地域・広報）
碓 智 徳 校長補佐（教務主事）	藤 田 活 秀 校長補佐（学生主事）
池 田 晶 校長補佐（寮務主事）	三 戸 毅 啓 校長補佐（事務部長）
岡 本 昌 幸 専攻科長	久保田 良輔 地域共同テクノセンター長
一 田 啓 介 機械工学科長	仙 波 伸 也 電気工学科長
江 原 史 朗 制御情報工学科長	杉 本 憲 司 物質工学科長
岸 川 善 紀 経営情報学科長	赤 迫 照 子 一般科（文系）科長
木 村 大 自 一般科（理系）科長	城 戸 秀 樹 機関評価室長
田 川 晋 也 キャリア支援室長	
岡 村 竜 也 総務課長	穂 枝 澄 学生課長
（陪席） 学生主事補、総務課課長補佐（総務人事連携担当）、総務企画係長	

### 4. 欠席者

○運営諮問会議委員（五十音順）2名

小 関 浩 幸 委員	高 瀬 太 委員
------------	----------

### 5. 議題

- （1）宇部高専の教育活動等に関する総合評価
- （2）本校の教育方針
- （3）課外活動の環境整備

## 6. 日 程

- 10 時 30 分 開 会  
校長挨拶  
出席者紹介（本校側は、座席表に代えることで省略）  
資料の確認
- 10 時 35 分 議事開始  
一、議長選出  
二、議長挨拶  
三、議題
- 10 時 40 分 （1）宇部高専の教育活動等に関する総合評価（30分）
- 11 時 10 分 （2）本校の教育方針（20分）
- 11 時 30 分 （3）課外活動の環境整備（20分）
- 11 時 50 分 四、議長挨拶  
五、校長謝辞
- 12 時 00 分 閉 会

## 7. 配付資料

- 令和7年度運営諮問会議開催要領
- 運営諮問会議委員名簿
- 令和7年度運営諮問会議座席表
- 宇部工業高等専門学校運営諮問会議規則
- 議題 資料1：宇部高専の教育活動等に関する総合評価  
資料2：本校の教育方針  
資料3：課外活動の環境整備
- 令和7年度宇部工業高等専門学校 学校要覧
- 令和7年度宇部高専学校案内
- 令和7年度宇部工業高等専門学校年度計画
- 令和7年度宇部工業高等専門学校いじめ防止プログラム（年間計画）
- 令和7年1月～12月 宇部工業高等専門学校の動き
- その他
  - 学校だより
  - 地域共同テクノセンター News&Reports

## (1) 開 会

総務課長の進行により、運営諮問会議が開会された。

## (2) 校長挨拶

本日はお忙しいところ本校にお越しくださり誠にありがとうございます。

皆様方には、日頃より、本校の教育、研究、地域、国際協力活動など、多方面でご支援くださり誠にありがとうございます。

皆様方のご支援に応えるように本校の学生たちもいろいろと活躍しています。

まず、中国地区高専体育大会では、10競技が全国大会に進出しました。全国大会でも硬式テニス女子団体優勝、女子ダブルス、男子ダブルス、水泳女子100m背泳ぎで優勝するなど非常に活躍しています。また、将棋でも全国優勝しています。

さらに、全国高専プログラミングコンテストでは、課題部門・自由部門・競技部門の全競技で全国大会に出場し、自由部門では企業賞もいただきました。研究活動においても学会のポスター賞や協会賞を受賞しています。

また、宇部市高校生ビジネスプランコンテストでは、最優秀賞、優秀賞を受賞しました。ありがとうございました。詳細はWebサイトや本日配付しております資料「令和7年1月～12月 宇部工業高等専門学校動き」をご覧ください。

令和7年度の夏休みには72名の学生が海外留学しました。得難い貴重な体験を通し、参加した学生たちの成長をまぶしく感じております。3月にも17名程度の学生が海外留学する予定です。

また、本校には現在12名の長期留学生と29名の短期留学生が在学しております。これらの留学生にも積極的に声をかけオンキャンパスでの国際交流を実施しています。

本校では、社会の要請に対応し、数理・データサイエンス・AI教育を推進しています。文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」応用基礎レベルが令和7年度までに全学科で認定されました。また、「大学・高専機能強化支援事業」により、情報教育棟が新設されるなど、本校の情報教育環境がさらに向上します。

また、令和8年度から、電気工学科をこれまでの専門性に加えて情報系も軸に備える学科に改組し、機械工学科および物質工学科に情報系のコースを設置する計画です。これにより、すべての学科でDX教育をより充実させることが可能となりました。もちろん、在校生についてもDX教育を充実させております。これまでの専門教育は堅持しつつ、DXマインドとグローバルマインドをもった学生の育成を目指してまいりたいと考えております。

本日は、宇部高専の教育活動等に関する総合評価に加えて、本校の教育方針や課外活動の環境整備についてご審議いただき、皆様から忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



## (3) 出席者紹介、資料の確認

総務課長から、本日出席の運営諮問会議委員と本校教職員が紹介された。

引き続き、配付資料の確認が行われた。

## (4) 議長を選出

総務課長の進行により、本会議の議長として山田委員が選出された。

## (5) 議長挨拶

山口大学工学部の山田でございます。

今年 2026 年というのは丙午の年にあたるということで、古くからの迷信をご存じの方は、丙午と聞くとあまり良いイメージを持たれていないかもしれません。しかし、「丙」というのは太陽や火が持つ強いエネルギーを、「午」はスピード・行動力・社交性を象徴しています。つまり、勢いや力強さを象徴しており、この「丙」と「午」が重なることで、情熱や勢いが高まり、太陽のようなエネルギーに満ちあふれた一年になるというふうに言われております。また、大きな飛躍のチャンスであり、新しいことや諦めかけていたことに挑戦すると、良い結果につながるとも言われております。



実は工学部でも、今年の4月に組織を大きく再編いたします。そして、先ほどの校長先生のお話にもございましたけれども、宇部高専様もこの4月から情報教育強化のために改組されるということで、今後、山口大学と宇部高専様の改組がより良い方向に向かっていくことを願って、期待するところでございます。

本日は、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## (6) 議 事

(議長 山田様)

それでは、お手元の「運営諮問会議開催要領」に基づきまして、議事を進めさせていただきます。この会議の職務は、「運営諮問会議規則」によりますと、宇部高専の教育・研究活動や運営に関する重要事項を審議し、校長に対して助言を行うこととなっております。各委員の皆様方におかれましては、宇部高専に対するご助言、ご意見等をどうぞご自由にお聞かせ願ひたいと存じます。

本会議の進行形式としましては、初めに宇部高専側から議題について説明していただきまして、その後、皆様との意見交換をお願ひしたいと存じます。

それでは、早速、議事に入りたいと存じます。

まず、本日の議題1「宇部高専の教育活動などに関する総合評価」について、機関評価室長の城戸先生よりご説明をよろしくお願ひいたします。

## 議題1：宇部高専の教育活動等に関する総合評価

(機関評価室長 城戸)

ご紹介ありがとうございます。議題1の宇部高専の教育活動等に関する総合評価につきまして、機関評価室長の城戸から説明させていただきます。

まず資料1-1が概要になっており、こちらに基づいて説明していきます。各部署にて中間の自己点検を実施し、機関評価室が取りまとめ、その評価を行っています。中間評価として、特筆すべきものを「S：特に優れている」、実施済みものを「A：良好である」、実施予定であることを「B：概ね良好である」、実施が不十分なものを「C：不十分である」、そして次年度以降に実施予定または令和7年度に該当がないものを「—：評価なし」とし、また、年度末までに実施予定のものについては（S）、（A）と括弧を付けています。



### 【基準1 教育の内部質保証システム】

ここは項目が26項目あり、すべて「A：良好である」と判断しております。「宇部工業高等専門学校における自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、令和6年度の自己点検・評価を実施し、令和7年5月に本校のホームページに公表しております。このようにシステムが運用されていることから、良好であると判断しております。

### 【基準2 教育組織及び教員・教育支援者等】

基準2は11項目で構成されており、基本的には機関別認証評価の方針に合わせて基準を作成しております。各項目を評価したところ、すべて「A：良好である」と判断しております。

例えば、「2-8 教育方法に関するFDが実施されているか。」「2-9 FDが教育の改善に結びついているか。」という項目です。令和9年度に機関別認証評価を受ける予定であり、それに向けたFD活動を今年度実施しており、良好であると判断しております。

### 【基準3 学習環境及び学生支援等】

基準3は41項目で構成されており、学生支援に関わる多様な内容が含まれています。このうち8項目について、「S：特に優れている」と評価しております。その他の項目は、すべて「A：良好である」と判断しております。

1つ目が「3-10 ICT環境のセキュリティ管理体制は適切に運用されているか。」です。本年度、クラウドサービス利用運用ガイドラインを制定し、運用を開始しております。

次に、「3-15 図書、学術雑誌、視聴覚資料等が有効に活用されるための取り組みを行っているか。」については、図書等の利用を促進するため、ポスターコンクール等、さまざまな行事や取り組みを行っております。

「3-29 資格・検定試験支援制度は有効に機能しているか。」については、技能検定を新たに支援制度に追加し、受験者に対して実習工場等で技術指導を実施しております。

「3-32 進路指導ガイダンスを実施しているか。」について、就職が決定した現5年生に対して8月にアンケートを実施し、キャリア教育の効果を調査しております。その結果を踏まえ、キャリア教育の内容とタイミングの見直しを行い、低学年へのキャリア教育を1年生から導入しております。3・4年生へのジェネリックスキルの内容の改定を毎年検討し、キャリア教育を実施していく予定です。

「3-33 進学・就職に関する説明会を実施しているか。」については、就活アンケートの学生の困り事への対応として、就職進学活動ガイドブックの内容を大幅に見直しております。

「3-36 課外活動に対する責任体制は有効に機能しているか。」については、議題3で学生部

から詳細な説明があるかと思いますが、平日は学生部教員が、土曜日は課外活動巡視員2名を配置し、クラブ活動の安全管理を行っております。

「3-38 学生寮は勉学の間として有効に機能しているか。」については、寮生会の学力向上委員会が、低学年の寮生を対象に、ほぼ毎週1回勉強会を実施しております。

「3-40 いじめ防止・対策のための体制が整備されているか。」については、学生支援センターと関係部署が連携し、いじめ防止や早期発見に努めております。

#### 【基準4 財務基盤及び管理運営】

基準4は31項目あり、良好であると判断しております。

そのうち「4-1 管理運営に係る委員会が有効に機能しているか。」について、「S：特に優れている」と評価しております。各種委員会を定期的または必要に応じて開催し、所掌事項について審議・報告しております。また、学内で開催されるすべての委員会の議事内容を全教職員が共有できるように運用しております。

#### 【基準5 準学士課程の教育課程・教育方法】

基準5は24項目あり、すべて「A：良好である」と判断しております。

例えば、先ほど校長の挨拶にもありました宇部市高校生ビジネスプランコンテスト(5-7)があります。「5-7 創造力を育む教育方法の工夫を行っているか。」という項目において、アントレ課題をプロジェクト学習で実施し、3グループが宇部市高校生ビジネスプランコンテストにエントリーしております。また、ジェネリックスキルにおいてもアントレプレナーシップに関する動画を公開しております。

#### 【基準6 準学士課程の学生の受け入れ】

基準6の7項目中、6-7は「-：評価なし」、それ以外はすべて「A：良好である」としております。

例として「6-4 入学した学生がアドミッション・ポリシーに沿っているかの検証がなされているか。」があります。以前の推薦入試での活動記録の評価と入学後の成績の相関を確認し、必要ないと判断し、令和7年度入学の推薦入試で活動記録による評価を廃止しております。

#### 【基準7 準学士課程の学習・教育の成果】

基準7は8項目ありまして、すべて「A：良好である」としてあります。

例えば、「7-6 就職率から学習・教育の成果が認められるか。」「7-7 進学率から学習・教育の成果が認められるか。」については、就職率・進学率のいずれも令和7年度も高い水準を維持しており、成果が認められると判断しております。

#### 【基準8 専攻科課程の教育活動】

基準8は専攻科についてです。基準5から7と同様にまとめられ、全部で33項目あり、「S：特に優れている」が1項目、その他は「A：良好である」としてあります。

S評価としたところが「8-2 専攻科の教育課程は準学士課程の教育と連携し、発展した構成となっているか。」です。準学士課程のカリキュラム改善を受け、令和5年度からの入学生に対して、より準学士課程の教育を発展させた新カリキュラムとなっております。現カリキュラムの課題については各学科に審議を依頼し、その結果を基に専攻科委員会で審議する予定です。

以上のことから、専攻科についても全体として良好であると判断しております。

#### 【基準9 研究活動の状況】

基準9は4項目あり、すべて「A：良好である」としてあります。

例えば、「9-4 目的、方針に沿った研究活動の成果が得られているか。」については、これらの成果を地域共同テクノセンター News&Reports に集約し、公表しております。

#### 【基準10 地域貢献活動等の状況】

基準10につきましても地域貢献活動の状況で、すべて「A：良好である」としてあります。

本校の目的に沿った地域貢献活動の成果を確認し、地域共同テクノセンター News&Reports に集約して公表しておりますので、適切に実施されていると判断しております。

以上、190項目の自己点検を行い、昨年度も最終的にA評価が多かったものの、いくつか改善点があり、これらが現在対応済み、または改善予定であり、すべて良好であると判断しております。

以上で説明を終了いたします。

#### (議長 山田様)

ご説明ありがとうございました。

それでは、本日の議題の1、宇部高専の教育活動等に関する総合評価につきまして、委員の皆様の方からご質問、ご意見等ございましたら、よろしくお願いいたします。

#### (委員 篠崎様)

はい、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは御校には、これまで多くの政策にご協力いただいておりますことに、心より御礼申し上げます。今年も資料を拝見させていただきましたが、さまざまなアンケート等、学生の皆様からのご意見を取り入れ、改善を進めておられる点について、心より評価したいと思っております。

私からは質問を2点、加えて意見を述べさせていただきます。

まず資料についてですが、「( ) 付きの評価」は「年度末まで実施済み」を意味し、昨年度から運用されていると認識しております。190項目のうち95項目が( ) 付きであり、約60項目が昨年度の資料でも( ) が付けられていたと思います。資料上で昨年( ) 付きであったものが今年どのように変化したのか分かりにくいので、「昨年は結果こうなりました。」「今年はどういう状況です。」と比較できる資料があると非常に見やすいかなと思いましたが、可能であればご検討いただければと思っております。

まず、質問ですが、1点目は成績評価・卒業認定についてです。項目番号 5-22、8-16、1-21、2-9 など、試験問題が同一内容になっていないかなど、さまざまなチェックが行われているものと認識しております。試験というものは非常に学校に対する信頼につながる場所であると思います。一方で、8-19に関連してくると思いますが、学力選抜試験が実施されましたが、昨年度は試験内容に不備があった旨の報道発表をされております。これを踏まえまして、学内で実施される試験等のチェック体制や、再度問題があった場合の対応方針など実際に決まっているのであれば、それについてお聞かせください。以上が1点目です。

2点目は、地域密着型の情報人材育成について、先ほど金寺先生から情報教育棟に関する説明がありました。小中学校を対象とした取組については、昨年も質問した点ですが、具体的にどのようなものがあるのか、この後の議題2で説明があるとのことでしたので、そちらで聞かせていただければと思います。

続いて、課外活動の環境整備についてです。昨年も、適切な課外活動が展開されているか質問いたしましたが、日体大と協定を締結されたとのこと、こちらもこの後の説明を楽しみにしております。

最後に、もう1点気になっているのが、近年、特に今年度、排外主義的な考え方、とりわけ外国人サービスに対するものが日本国中で見受けられ、残念ながら差別的な言動が SNS 等を中心に出てきております。

このような状況の中で、御校にも留学生の方がいらっしゃる中で、彼らをしっかりと守ってあげなければならない。さらには学生全体で、外国の皆様との多様性を認め合わなければならないというところで、その辺はどのような取り組みをされているのか質問させていただければと思いま



す。

以上です。質問が多くなりましたので、漏れがありましたら、また後ほど確認させていただきます。ありがとうございました。

#### (校長)

まず、試験につきましては、おそらく専攻科の入試問題に関するご指摘であると理解しております。入試ではわずかなミスでも許容されないことから、お詫びを掲載した次第です。試験の実施にあたっては、合否判定においても他の受験者を含め不利益が生じぬよう配慮し、適切に実施しております。

定期試験等についても同様に、しっかりとチェック体制を整えており、内容に問題がないか各学科において確認し、報告する体制を整えております。

次に、外国人差別に関する点についてですが、私どもも強い懸念を抱いております。本校には、常時10名程度の長期留学生在籍しており、加えて短期留學生も受け入れております。短期留學生の滞在期間は、おおむね短い場合で1か月、長い場合で5か月程度となっております。これらの留學生に対しては、多様性を尊重する姿勢を重視し、週に1～2回程度のミーティング等を行い、交流の機会を設けるよう努めております。

さらに、近年では外国人教員の採用も積極的に進めており、既に5名の外国人教員が着任しております。これらの教員にも、留學生との間に入り、支援を行っております。

また、先ほど申し上げたとおり、令和7年の夏には72名、昨年度は計105名の学生が海外研修として渡航しております。その際にも、多様性を尊重し、現地でさまざまな支援を受けながら研修を行っております。先方の大学や研修機関とも連携し、研修時には学校の担当教員も同行し、サポート体制を整えて実施しております。

#### (委員 篠崎様)

ありがとうございます。

#### (議長 山田様)

ありがとうございました。他に、ご質問等ございますか。

#### (委員 末永様)

現在、就職率については数値として示されておりますが、IT化や学科再編がここ数年進んでおります。5年、10年といった期間において、従来の就職先にどのような変化があるのか、お聞かせいただけたらと思います。

特に、従来は工業系分野への就職が多かったものと認識しておりますが、現在では文系・理系という区分が必ずしも明確でなくなってきているのかもしれませんが、学生たちの就職先にどのような変化が見られるのかについて、ご教示ください。



#### (キャリア支援室長 田川)

キャリア担当より回答いたします。

就職先につきましては、学科構成（機械、電気、制御、物質、経営）に応じ、それぞれの専門領域に関連する企業へ就職しております。この点については、ここ数年で大きな変化はございません。

一方で、懸念事項として、県外就職が近年増加してしまっているという状況があります。そのため、できる限り県内企業と接する機会を設けるよう努めております。高専は県内産業の活性化に寄与する役割を担っておりますので、県内企業との接点づくりを進めているところです。

以上になります。

#### (校長)

キャリア支援室長から申し上げたとおりですが、4学科については工学系ということで、それぞれの分野に進んでおります。経営情報については融合学科という位置付けであり、もともとの方向性から大きな変化は感じておりません。

県内就職率についてですが、令和5年度は県外就職率が80%、県内就職率が20%程度でしたが、現在は15%ほどに減っており、危機感を抱いています。そのため、我々としてもできる限りの取り組みを進めております。

まずは県内企業、特に宇部市を中心とした“オンリーワン企業”をしっかりと知ってもらう活動を行っています。昨年12月12日には合同企業研究会を開催し、県内から約47社に参加いただきました。こちらの研究会は、本科3～5年生と専攻科1年生という、就職を控えた学生向けとなっています。

また、令和7年度から、この研究会に加えて1、2年生向けのキャリア教育の機会を設け、県内企業の皆様、特に本校T&B参加企業の方々にご協力いただきながら、事前講習や企業情報の提供をしていただきました。さらに、工場見学についても依頼し、実際に現場を見てもらう機会を設けています。

加えて、一度県外へ出た学生がUターンできる仕組みも強化したいと考えており、県内企業のリストをウェブサイトで公開したり、卒業生からの相談に対応する体制を整えたりしております。

#### (委員 佐々木様)

続いて質問させていただきます。初めての参加となりますので、うまく質問できるか分かりませんが、よろしくお願いします。

就職に関するお話についてですが、中学校でも「地元で働く」という考え方を強く伝えており、小中学校を通じて“地元プライド”を育てる取り組みを進めております。その意味でも、高専と連携をより充実させ、できる部分があればぜひ協力していきたいと考えております。

さて、いじめについて質問があります。中学校とは違う年齢層の中で、現状の課題、そして今後必要とされる取り組みをどのように捉えているのか、お伺いします。



#### (学生主事 藤田)

学生主事をしております。いじめについては、早期発見が最大のいじめ防止であるという考えから、年に4回、いじめに関するアンケートを実施しています。また、学生・教職員向けの講演会も年1回開催しています。「絶対にいじめを許さない」という雰囲気为学校全体に醸成するための取り組みを進めております。

残念ながら令和7年も2件、いじめとして認定された事案が発生しています。いじめが疑われる事案が発生した場合は、速やかに私へ報告があり、関係教員で組織をつくり事実確認を進め、いじめ対策委員会でいじめに該当するかどうかを審議します。いじめと認定された場合は、懲戒

処分等の対応を行っております。昨年より増加しており、取り組みはしているものの、難しさを痛感しているところです。

私からの説明は以上です。

#### (委員 佐々木様)

ありがとうございました。いろいろと難しいところがあるかと思います。生徒情報の共有なども重要だと感じており、いじめというのは見えない場面で起きることもありますので、対応について今後連携できるところはご一緒させていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。

#### (委員 久次様)

質問させていただきます。就職率・進学率のデータが項目番号 7-6、7-7 に掲載されており、いずれも A 判定とのことですが、就職率が 96.2%、進学率が 90.8% 台という数値は、全国の高専と比較して高い水準なのでしょうか。

そしてもう 1 点、就職率が 96% である一方、4% 程度の未内定者がいると思います。この学生への救済・サポート体制について、どのような取り組みを行っているか教えてください。

次に、「3-33 進学・就職に関する説明会を実施しているか。」という項目についてです。私も出身母体が企業ですので、特に高専 OB の皆様には大変活躍していただいております。感謝している企業が多いです。企業の立場から申し上げますと、企業訪問やインターンシップの件数がどの程度増えているのか、また質的に深まっているのかといった数値があれば共有いただけるとありがたいです。



#### (キャリア支援室長 田川)

キャリア担当からお答えします。

就職の状況ですが、こちらは中間の自己点検時のものであり、現時点では 100% に近い状況となっております。実家に就職する学生が 1 名、進学については結果待ちの学生が数名おり、大学院進学予定者も 2 名います。合格を期待しています。

インターンシップについては、コロナ禍では活動が停滞していましたが、近年は参加学生が増加しています。本校の場合、4 年生を中心に参加しており、200 名程度のうち 170 名程度が参加しました。

ただし、県外でのインターンシップ参加が多い点が懸念されています。令和 7 年の県内インターン参加者は 16 名で、総数は増えているものの、県内分は減少しています。

#### (委員 久次様)

県外企業が増えているというのは、県内企業側がインターンシップ制度を設けていないのか、学生が県外を希望しているのか、どのような理由なのでしょう。

#### (キャリア支援室長 田川)

県外企業の方が、情報発信が積極的であり、受け入れ条件が良いため、学生が参加しやすい傾向があると考えられます。

県内企業については、山口県インターンシップ推進協議会を通して申し込むこととなりますが、本協議会の利用を希望する学生が少なくなっているため、その結果として県外就職が増えて

いる可能性があります。

### (校長)

補足しますと、山口県インターンシップ推進協議会を通しての参加となりますと「学生1人につき企業1社」という制限があるため、学生は自由度が高い県外インターンシップを選んでいるのではないかと思います。令和8年度は、やり方を少し検討し、県内企業をより知ってもらう機会を増やし、直接県内企業へ就職、またはUターン就職をしてもらえる体制を取っていきたいと思います。

### (委員 末永様)

私自身も大学生の子どもがいて、2年生ぐらいからインターンシップに多数参加していました。実際の就職とは異なる業界にも触れられる良い機会だと感じています。

ここで伺いたいのは、4～5年生のインターンシップについて、時間的な制約や学校のカリキュラムとの関係はどうなっているのかという点です。

### (校長)

基本的には、4年生の夏休み以外は認めておりません。それ以外の期間は授業スケジュールがタイトであり、高専教育をしっかりと行っているため、原則として夏休み期間に海外研修やインターンシップなどに参加してもらうようにしています。

### (議長 山田様)

ありがとうございました。まだまだご質問等があるかと思いますが、予定の時間を超えておりますので、次の議題に移りたいと思います。

本日の議題2「本校の教育方針」について、教務主事の碓先生よりご説明をよろしく願いたします。

## 議題2：本校の教育方針

### (教務主事 碓)

教務主事を務めております碓です。本校の教育方針についてご紹介させていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、この教育方針についてのテーマに至った経緯ですが、先ほどから話題に出ております「大学・高専機能強化支援事業」があります。この事業について概要を説明し、それに伴って数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定を受ける必要があったため、その紹介と、本校としての取り組みや計画についてご説明いたします。

令和8年度より新カリキュラムとなり改組を行いますので、それに伴い本校のディプロマ・ポリシー（卒業認定の方針）およびカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）に追加した点についてご紹介し、令和7年度の取り組みについても説明します。

まず「大学・高専機能強化支援事業」についてです。こちらは大学改革支援・学位授与機構が選定するもので、デジタル・グリーン等の成長分野をけん引する高度専門人材の育成を目的とし、成長分野への学部・学科転換等の改革を行う大学・高専に対し補助金が出る仕組みになっています。本校は支援事業の区分2である「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化」に取り組むことになります。



本校としては令和6年度から令和15年度までの10年間を対象に、『DX/GX で切り開く未来を支える情報技術と高度専門性を備えた宇部高専エンジニアの育成』というテーマで申請しました。

情報人材育成に関して文部科学省では、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの認定制度があり、リテラシーレベルと応用基礎レベルがあります。応用基礎レベルの情報教育を受けた人材を毎年 25 万人作る必要があるということで推進されています。本校は過去にリテラシーレベルを取得し、応用基礎レベルについては、課題解決に役立つ実践的能力や情報技術活用の教育カリキュラムが満たされているとして、令和7年8月26日付で制御情報工学科、物質工学科、経営情報学科が認定され、令和6年度に機械工学科と電気工学科が認定されており、これですべての学科が認定されました。この教育を進めるにあたり、申請書の概要として、第4次産業革命の推進に貢献する DX/GX 人材の需要に対応し、情報技術力の強化により高度化した専門性を備えた技術者を養成するという方針があります。電気工学科は電気システム工学科として、現在の専門性に加えて情報系を主軸に備える学科に改組し、機械工学科・物質工学科では情報分野を融合したコースを設置します。既に情報教育に取り組んでいる制御情報工学科と経営情報学科は、さらなる専門性の高度化を進めます。これは本校だけでなく、山口県や宇部市などの自治体、地域の産業界、山口大学などの大学や高専と連携しながら、本校の情報人材育成を推進していく取り組みです。

令和8年度からの新しいカリキュラムでは、機械工学科に「知能機械システムコース」、物質工学科に「データサイエンスコース」を設置し、それぞれ5名、電気システム工学科では40名、制御情報工学科・経営情報学科ではそれぞれ40名、1学年200名のうち 130 名（全体の 65%）が情報教育を受け、情報技術と専門性を高めていくという内容に取り組むこととなります。実際は、全学生が応用基礎レベルを満たすためのカリキュラムを受けることとなります。

本校では教育理念、教育方針、三つのポリシーを定めております。教育理念は、「温かい人間性と豊かな国際性を備え、創造的目標に対して常に向上心をもって、果敢に粘り強く努力を傾注できる人材を育成する。」を掲げています。この理念を踏まえて教育方針で「養成すべき人材像」を示しています。教養と倫理、専門性、国際性、探求能力、チャレンジ精神など、卒業時に身につけてほしい能力を定めています。

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）では、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、多様性・協働性、意欲・適性を備えた人材を求めています。卒業認定の方針（ディプロマ・ポリシー）は、今回の改組に伴い、情報技術をさらに重視する観点から、情報リテラシーや情報技術を十分活用することができる能力を備えるという方針で、各学科において内容を検討・変更しています。これらを踏まえ、教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）も変更しました。卒業認定のレベルまで満たしたカリキュラムを作成していますので、カリキュラム・ポリシーについては、それぞれの学科・コースで分けて作成しています。その中では、データサイエンス、情報工学分野、AI といったキーワードがあり、これらのカリキュラムに基づいて学習し、卒業時には情報技術力を高め社会へ出て行ってほしいということで、このような設計をしています。

令和8年度に向けてカリキュラムを変更したこともあり、三つのポリシーを見直し、教育体制を再整備しました。また、情報教育棟を新設しており、令和8年8月頃には完成する見込みです。その中で設備の充実を図り、各学科が情報教育を推進するためのシステムや情報端末を導入し、環境整備を進めています。環境面だけでなく、人材面でも専門の特命教員を採用するなど体制を整えています。

地域との連携については、宇部市や山口大学工学部と協力し、「地域リーディング・イノベーター講座」を令和7年度より5年生向けに開講しています。山口大学で新設される情報学部に関しても、専攻科工学特論のご講演やカリキュラム整合の確認等にご協力いただいております。宇部市、山口県とは、ふるさと納税制度を活用したご支援をいただいております。また、大学リーグやまぐちではデータサイエンスワーキンググループに参加し、先日のワークショップにも参加しています。うべスタートアップでは宇部市高校生ビジネスプランコンテストに参加させていただいております。

産業界との連携としては、宇部高専 T&B に加盟している企業にご支援をいただき、16 歳以下対象の U-16 プログラミングコンテスト山口大会を開催しています。また、令和8年度以降の情報教育

に関わる寄附もいただいております。大変感謝しております。

本校の取り組みとしては、社会実装やアントレプレナーシップ・スタートアップ教育の一環として、ジェネリックスキルやプロジェクト学習、地域教育を通じて、学科・学年を横断した形で起業家工房を活用し、アイデアの具体化やビジネスプランコンテスト等各種コンテストへの参加、起業家サミットへの出場などをしております。地域教育では、小中学生や地域への出前授業が計 76 件で、中学校が 31 件、小学校が 45 件でした。特に中学校からの依頼が増加しました。情報技術関連については、中学校で 6 件、小学校で 27 件の出前授業を実施しています。公開講座については、ロボット教室やデータサイエンス講座など、6 件中 3 件が情報技術関係でした。

これらの取り組みを今後も継続し、本校だけでなく、地域・大学・産業界の皆様と協力しながら推進していきたいと考えています。情報教育棟が完成した際には、さらに多様な活動ができればと考えています。

以上が本校の教育方針の紹介となります。ありがとうございます。

#### (議長 山田様)

ご説明ありがとうございます。

それでは、本日の議題の 2、本校の教育方針につきまして、委員の皆様の方からご質問、ご意見等をいただきたいと思います。

#### (委員 佐藤様)

私はセントラル硝子から参りました。企業の立場からしますと、弊社はケミカルを中心とした製造業ですが、DX/GX などもそうですが、現在は社会全体の変化点が最高潮にあり、我々自身もかなり内部で取り組んでおります。また、地域の教育においても、非常に優秀で知識レベルの高い学生を受け入れており、それによって製造業としても大きな進捗が見られており、現状として成果が出ていると感じています。

質問しようと思っていた点ですが、海外留学を推進されるなど、国際的な人材育成を進めておられます。グローバルな人材育成に加えて DX/GX の推進を、これまで大きな転換をされていなかった物質工学系・機械工学系にもコースを設けられたとのことでした。私自身もケミカル出身ですが、これまでは DX に関するリテラシーが十分ではありませんでした。しかし、このような教育を受けた学生が入社してくれることは非常に心強いと思います。40 名中 5 名という人数ですが、今後増やしてほしいという気持ちもあります。今後、コースの学生数についても検討される予定でしょうか。



#### (教務主事 碓)

一応 5 名と設定させていただいておりますが、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムの応用基礎レベルについては、全学生が受講することになっています。そのため、情報分野の基礎は全員が身につけるはずですが、専門分野に対して情報技術をどう生かすかという点で、コースによって重点が異なるだけです。基礎となる部分は全学生が身につけます。

#### (委員 佐藤様)

それはすごく心強いです。人材育成については、時代に沿った方向で取り組んでいただいております。今後もよろしくお願ひします。

(校長)

申請しておりますので5名は確実で、希望者によっては増える可能性があり、5名以上とお考えください。

(委員 末永様)

質問と意見があります。令和8年以降の入学者には5項目の要件を備えていただくということで、その前半3項目については具体的な説明がありました。こちらについて、雇う側としては4項目目の「論理的説明力、周囲との協調性および自ら学ぶ力」などは、社会に出る上で非常に重要だと思います。一定の学力を備えていることはもちろんですが、この4項目目の領域が最も重要ではないかと感じます。ぜひ、こうした能力を高めるために、カリキュラムの中でどう育成していくかをより充実させていただきたいです。実際、採用の面接や入社後のプレゼン能力の高さは非常に重要ですので、強化を期待します。

質問についてですが、先ほど地域教育の話がありましたが、出前授業はどのように単位化されているのでしょうか。

(教務主事 碓)

出前授業については、単位化されています。基本的には4年生が小中学校に出向き、各学科の専門を生かした内容を紹介しています。また、課題解決型の地域教育の単位もあり、こちらは2年生から4年生まで履修可能です。地域の課題を解決する取り組みとして、公開講座のような形で「ものづくり体験」などを企画し、グループで計画から実施まで行う内容です。このように、自分たちで企画し、実践まで行う学生が多数おり、出前授業に加えて取り組みが広がっています。

(議長 山田様)

他にご質問はよろしいでしょうか。

それでは、本日の議題の3「課外活動の環境整備」について、学生主事の藤田先生よりご説明をよろしくお願いいたします。

### 議題3：課外活動の環境整備

(学生主事 藤田)

学生主事の藤田と申します。本日は課外活動の環境整備について説明させていただきます。

常盤中学校の校長先生、宇部市長様もご存じかと思いますが、最近、部活動の地域移行が国の大きな方針として示されています。教員の負担軽減と、持続可能な活動体制の構築が目的とされています。

宇部高専としては、課外活動が培うさまざまな教育的効果を重視し、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。本校ホームページでも紹介していますが、課外活動には自己肯定感の向上など多様な教育的効果があり、本校の教育理念である「温かい人間性と豊かな国際性を備え、創造的目標に対して常に向上心をもって、果敢に粘り強く努力を傾注できる人材を育成する」を目指す上でも極めて効果的な活動であると考えています。また、高専は5年間一貫教育であるため、上級生が下級生を指導するという点でも教育効果が高いと考えています。



一方で、課外活動を継続するためには、指導内容の充実、学生の安全確保、教員の負担軽減、適正な部の設置などの課題があります。本校ではこれらを方針として掲げ、以下のような取り組みを進めています。

指導内容の充実については、外部の課外活動指導員を雇用して配置しています。安全確保と教員負担軽減については、安全管理体制の見直しを行いました。部の適正数についてはワーキンググループを立ち上げ、現在検討を進めています。

課外活動時間は、平日は原則2時間、休日は3時間程度と定めています。下校時間が18時15分のため、平日は原則として16時30分から18時15分までの105分です。しかし、体育館が2つしかなく利用数が多いため、延長届を提出したクラブに限って20時まで認めています。

本校の部活動数は文化系が11、体育系が22で、他の高专と比べても非常に多く、活動の幅が広いことが特徴です。そのため、適正な数の部の設置についてはワーキンググループで議論を進めています。教員はクラブ指導教員として配置され、クラブ活動の管理・運営、そして大会などへの引率を担当します。大会や練習試合の多いクラブには複数名の教員を配置し、負担軽減に努めています。

外部指導員は、各クラブが自ら依頼し、現在33名の方に来ていただいています。専門技術の指導を担っていただくことで、教員が技術指導を行う必要がなく、配置の際に専門性等を考慮しなくてよいというメリットがあります。また、外部指導員にも引率を認めており、教員の負担軽減につながっています。

安全管理の見直しでは、令和6年度から「集中的な安全管理」を徹底しています。平日は学生部の教員4名が交代で、誰か1名が17時から20時まで校内に常駐し、土曜日は課外活動巡視員2名を9時から18時まで配置しています。巡視員には専用の携帯電話を持ってもらい、各活動場所に連絡先を掲示しています。事故が発生した場合は、フローチャートに従って対応する仕組みです。これにより、以前のように教員がすべて対応しなくても済むようになりました。また、教員が出張に行っている場合でも活動ができるため、教員・学生双方にメリットがあります。さらに、令和7年度には日本体育大学と「学校部活動の地域協働・融合に関する包括連携協定」を結びました。指導員の質の保証を目的に、コーチングスキルに関する講演などを通して技術向上を図っています。

日本体育大学のコーチングスキルは、「アスリートファースト」ではなく「アスリートセンタード」という考え方を掲げ、アスリート自身が主体となって自ら考え、行動し、指導者はアスリートの成長を支えるという理念です。これはスポーツだけでなく一般教育にも応用できる内容です。

令和7年度は、教員と指導員に向けてコーチングスキルの講演を実施しました。これは教員側のメリットにもなりますし、地域企業 T&B の皆様にも同様の講演を行うことで、興味を持った方が「自分も課外活動指導員として協力してみたい」と思うきっかけにもなり、指導員の確保にもつながると考えています。

また、日本体育大学は地域におけるスポーツ・文化活動の普及にも力を入れており、本校としても連携することで双方にとって良い効果が得られると考えています。令和7年度は日本体育大学の伊藤先生に講演をお願いしました。本校でFD・SD研修として講演を実施し、その後T&B総会でも講演を行っていただき、最後に本校の課外活動指導員向けに研修をしていただきました。これら講演資料は本日の配付資料の最後に添付していますので、ご興味があればご覧ください。日本体育大学でも同様の取り組みが行われており、今回、本校との連携が実現したことから、先方から宇部市に提供可能な内容も提案いただいています。これについても資料にまとめています。

以上で説明を終わります。

(議長 山田様)

ご説明ありがとうございます。

それでは、本日の議題の3、課外活動の環境整備につきまして、委員の皆様のほうからご質問、ご意見等をいただきたいと思えます。

(委員 篠崎様)

ご説明ありがとうございます。部活動については非常に大きな局面を迎えています。恒常的な部活動の指導をするということで、教職員の皆様に過度な負担がかかっているところを改善していこうと、昨年12月に宇部市も今後は地域で部活動を受けていく方針を示したところです。今回の委員会での日体大との取り組みは非常に参考になりました。本市でも「部活動展開室」がありますので、今日の内容をさっそく共有しようと思っています。

我々としても、「どの部門を残すか」「指導者の確保をどうするか」という点が最も難しい課題です。特に、地域指導員は仕事を持っていらっしゃるため、本業との両立が現実的には大きな課題であると思っております。日本体育大学のノウハウを学びつつ、企業で働きながらスポーツ指導に生きがいを持つ方々とも連携し、三者協働の形が作れば良いのではないかと考えています。ぜひいろいろと教えてください。

また、今回の取り組みで成果が見えてきた点があれば、特に教員の働き方改革につながる部分について教えていただければと思えます。よろしくお願いします。

(議長 山田様)

ありがとうございます。他の委員の皆様、いかがでしょうか。

(委員 佐々木様)

中学生にも丁寧に対応いただき感謝しています。情報教育棟ができることも期待しています。

一方で、不登校生が増えている中、何か社会と関わるきっかけをどう作るかを悩んでいるところです。情報関係に興味を持って家に籠もっている生徒もいると思えますので、そうした子どもたちを救い出すという視点を持っていただきながら、今後も連携していただくと非常に助かります。今後ともよろしくお願いします。

(議長 山田様)

ありがとうございます。他にご質問はいかがでしょうか。

今回の日本体育大学との連携のきっかけについて教えてください。

(校長)

中心となっている日本体育大学の伊藤先生は、オリンピック選手など国際的に活躍するアスリートの指導者を育成されている方です。ご挨拶に伺った際も、テレビで拝見したことのあるコーチの方々が集まっておられて、その方々にいろいろと教えていただきました。ちょうど本校の小泉教員が伊藤先生の弟子であるということでご縁があり、今回の連携が実現しました。

(議長 山田様)

他はいかがでしょうか。

全体を通して、皆様から何かご発言やご質問がありましたらお伺いいたします。

**(委員 久次様)**

非常にショックを受けたことがあります。高専生の県内就職率の話です。今度、商工会議所の会合があった際には、非常に重大事項であるということでも話したいと思っています。今回、宇部市内に限った場合はどのくらいになりますか。

**(キャリア支援室長 田川)**

宇部市ですと、本科生が6人、専攻科が1人で、全部で7名です。220名程度で7名です。

**(委員 久次様)**

県外就職者については非常にショックでした。今後、私は商工会議所を回りますし、企業へも訪問しますので、いかに高専生に宇部市、山口県に残ってもらうか、その活動を進めていきたいと考えています。ぜひ今後も情報提供をよろしくお願いします。

**(委員 篠崎様)**

ぜひ、宇部市・高専・企業の三者でインターンシップの条件改善など、市独自で改善できる場所があれば取り組みを進めたいと考えています。

また、今回興味深いと思ったのは、30代 OB の方々の地元就職についてです。20代前半で都会に出る流れは、人生形成やキャリアアップの面からある程度止められないところもありますが、30～40代で定住や住宅の建設、子育てを見据える世代をしっかりとターゲットにして戻ってきてもらうことが重要です。宇部市は移住政策に力を入れており、補助金制度もあります。高専 OB 向けの特別枠を設けることも、高専 OB は宇部のことをよく知っている方々なので、有効だと思っています。

おかげさまで宇部市は移住1位なのですが、それでも人口減少に悩んでおり、これは山口県全体の大きな傾向でもあります。高専のある宇部市だからこそ、OB の方々に働きかけられる政策なども一緒に考えていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

**(委員 佐藤様)**

私ども企業側としては、学生を受け入れる立場で、より多くの学生を受け入れられれば良いのですが、現在、会社は DX が進んだことで省力化が進み、以前と状況が変わっている部分もあり、複雑な状況ではあります。高専の学生が優秀であることは理解していますし、弊社には20名以上の高専 OB が在籍しており、来週で勤務1年となる新入社員もいます。かなり団結して業務に取り組んでおります。受入れについて、インターンシップを含めて前向きに検討したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

**(議長 山田様)**

ありがとうございました。他にはよろしいでしょうか。

それでは、委員の皆さま、本日は貴重なご意見をいただきありがとうございました。高専の皆様も丁寧なご説明ありがとうございました。以上で本日の議事を終了いたします。ありがとうございました。

## (7) 校長謝辞

本日は、委員の皆様より貴重なご意見を賜り誠にありがとうございました。今後とも地域の皆様と連携しながら、教育研究活動を進めてまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

特に、地元の“オンリーワン企業”を知ってもらい取り組み、出前授業など地元の小中学校との連携事業、大学・高専機能強化支援事業における山口大学様との連携など、多方面での地域の方々との連携を大切にしながら頑張りたいと思います。今後とも、ご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本日は誠にありがとうございました。

